

「標準テスト」の効果的な使い方

— 「難関中学入試」、勝利の方程式 —

これは「難関中学入試」を志す、小学生へ向けての話です。

「難関中学入試」の算数は、とにかく難しい。クイズと同じように、やったことがあるかどうかで、できるかどうかが決まります。応用的な問題ばかりなので、数多くの演習が必要です。ボクシングのスパarringの要領です。

「標準テスト」とは、？

標準という言葉を使っていますが、問題は難しいです。

- ① このテストは、「難関中学入試」によく出る分野を9のブロックに分けました。
→ 内容の概略は、「ベーシック・テスト」と同じように、「標準テスト」の「点数記録表」の項目を参照。
- ② 更に、各「標準テスト」の番号毎に、内容は少しずつ変化をつけながら、レベルの異なるA,B,Cの3段階の教材でできています。
レベルは、 $A < B < C$ の順で、Cが一番難しくなっている。
- ③ A,B,C各シリーズ、1～7の各7セット、すなわち、3シリーズ×7セット=21冊の問題、解答用紙、解答、解説映像で、できている。
- ④ 今回は、無料体験として、「入試応援企画」で使っている「4. 図形と比」のAシリーズ7冊を「トップページ」に置いているので、プリントアウトして、何点取れるか、生徒にやらせてみるとよい。11月～12月は「入試応援企画」を開催します。

(1) 「標準テスト」の使い方

「応用力マスターコース」

学校によって、入試の出題傾向が違うので、「1. 方程式」→「9. 場合の数」と順番に消化していくのではなく、今回の「入試応援企画」のように、自分にとって重要と決めた単元に優先順位を決めて、そこを集中的にマスターしていくのがベストの選択といえる。分野、問題を絞り込んだ勉強が大事です。

- ① 問題を解き終わったら、「標準テスト 点数記録表」に点数を記録する。
- ② 「標準テスト」の点数を見て、「教材一覧表」の応用レベルを参考にしながら、短期間、集中的に力をつけたい分野を選ぶ。
- ③ 「分野別1000」の応用レベルの中から、必要分野の問題を選び、プリントアウトして、勉強する。

以上、全体を通して言えることだが、点数が上昇傾向のトレンドにあることを常に確認していくことが重要である。